JAFスポーツWEB

2018年JAF全日本ジムカーナ選手権第4戦　ALL JAPAN GYMKHANA in 名阪 まほろば決戦［JAF公認No.2018-3109］

開催日：5月19～20日　開催場所：名阪スポーツランドCコース　格式：国内　主催：LAZY W.S［クラブ登録No.加盟27022］

フォト／堤晋一、JAFスポーツ編集部　レポート／勝森勇夫、JAFスポーツ編集部

SC西原正樹インプレッサ、苦渋の今季初優勝

SC西原正樹選手が今季初優勝。「クルマの調子が悪くて、もっとタイムは出せたはず。優勝は嬉しいけど、SCならオーバーオールを獲らないとダメだよね」と厳しい。

全10戦の全日本ジムカーナ選手権は早くも中盤戦へ突入。第4戦は関西のジムカーナの聖地である名阪スポーツランドCコースが舞台だ。参加台数は今季最多の140台を集め、選手権対象外のB1、B3を含めると148台もの参加となった。

天候にも恵まれ、ウィークを通じて完全なドライコンディションに恵まれた。しかし、会場は寒暖差が激しく、タイヤ選択を難しくした。

決勝コースは、前半が2つの180度ターンと回り方に指定のない180度を連続でこなす「ダブルフリーターン」が待ち受け、後半はCコースの外周を使って走る高速区間の組み合わせ。

勝敗のカギを握るのは前半のテクニカルで、特にダブルフリーターンが勝敗を大きく左右した。安全で確実な左旋回を取るか、リスクを犯してでも、最速ラインとなる右旋回を選ぶか。その攻略にはドライバーの個性が現れた。

第1ヒート。まずは低温路面に強いダンロップ勢が大方のクラスで主導権を握った。ターニングポイントはダブルフリーターンで、多くの選手がリスクの小さい左旋回を選択した。

強い日差しの中、第2ヒートに入る頃には路面温度は予想以上に上昇して、装着タイヤによる優位性はほとんどなくなった。

「勝負は2本目」と多くの選手が予測し、1本目を制した選手も集中力を高めスタートの時を待つ。案の定、第2ヒートは1本目をはるかに上回る首位攻防戦となり逆転劇が相次いだ。

PN1は、暫定トップの深川敬暢選手が自己タイムを1秒以上短縮して首位をキープ。ポイントリーダー福田大輔選手は2本目に逆転を誓ったが届かず2位。深川選手が逃げ切った。

第3戦エビス西で全日本ジムカーナ100勝目を挙げた山野哲也選手が走るPN2は、ダンロップ勢の松本敏選手と土手啓二朗選手が1-2フィニッシュ。最終走者の山野選手は土壇場での逆転優勝を狙うも、ダブルフリーターンで痛恨の失敗を喫して今回は3位に甘んじた。

PN3は今年から後期モデルの86にスイッチしたユウ選手。善戦した川北忠選手をコンマ1秒差で押さえて今シーズン2度目の勝利。86後期のセッティングが決まりつつある様子だ。

第3戦エビス西が不成立となったPN4は、ダンロップ勢の野島孝宏選手と茅野成樹選手の100分の1秒台を争う接近戦。軍配は野島に挙がり、僅か0.07秒という紙一重の勝利を得た。

Sタイヤを装着するSA1クラスは、一色健

1.SC表彰台。昨年チャンプの西原正樹選手は第4戦にしてようやく今季初勝利。2.SCの2位は開幕戦筑波ウイナーの牧野タイソン選手。3.第3戦エビス西に続いて代車のランサーで参戦したSC大橋渡選手だったが3位に終わった。4.今季はスタートダッシュが遅れたSC野中信宏選手がエビス西に続く4位。5.スポット参戦の桃井守選手がSCの5位。6.今季2勝目を挙げた若林拳人選手（中央）。SA1のシリーズ首位をひた走る。7.第1ヒートをSA1の暫定トップで折り返した一色健太郎選手。自己タイムを上げられず若林選手に逆転され2位に。8.名阪Cを得意とするSA1志村雅紀選手だったが、エビス西の勢いは続かず3位。

太郎選手が念願の初優勝に一歩届かず2位。最終走者の若林拳人選手が逆転勝利を飾った。

DC2インテグラのワンメイク状態となっているSA2も大詰めでの大逆転劇が待っていた。

1本目で脱輪ペナルティをくらった高江淳選手。2本目は完璧な走りで唯一の1分24秒台をマークして、今季唯一の2勝目をゲットした。

SA3は開幕3連勝中の小俣洋平選手が今回も好調を継続。2位を2秒近く引き離す圧巻のタイムで、今季の連勝記録を4に伸ばした。

SA4は、2本目のダブルフリーターンで右旋回の大勝負に出たベテランの津川信次選手が、菱井将文選手の猛追をかわして大逆転勝利。こちらも開幕から負け知らずの4連勝を飾った。

そして、全日本ジムカーナのトリを飾るSCは、インプレッサの駆動系にトラブルを抱えつつも、終始安定した走りを見せた西原正樹選手が第1ヒートで暫定トップに立った。

第2ヒートの出走前には「クルマが最後まで走り切ってくれること。それしかないなあ」と苦笑いで答えた西原選手。逆転を誓う後続選手は開幕戦を制した牧野タイソン選手、連勝中の大橋渡選手、さらに1本目で3番手時計の野中信宏選手。勝負所はダブルフリーターンだ。

しかし、想定外の路温に対してダンロップ勢の牧野選手と大橋選手はタイムを伸ばせず、トーヨータイヤ装着の野中選手も、課題としたダブルフリーターンが攻略仕切れず伸び悩んだ。「ハイパワー4WDにとってダブルフリーターンは難所。2本目も決め切れず、ここ以外は乗れていたのに残念」とは2番手の牧野選手だ。

そんな中で、西原選手は不安を抱えたマシンで2本目のタイムアップを果たして今季初優勝。「勝因？クルマが最後まで走り切ってくれたこと」とゴール後に苦い顔を見せた西原選手。抑制の効いた走りが功を奏した勝利だった。

9.第2戦エビス西から連勝となったPN1深川敬暢選手。**10.**第2ヒートは深川選手のタイムにコンマ8秒差を付けられたPN1福田大輔選手。**11.**今回は大きく離されてしまったPN1斉藤邦夫選手。**12.**アバルト124スパイダーに乗り換えて、ついにPN2初勝利を挙げた松本敏選手。PN3時代、2016年開幕戦以来の嬉しい勝利だ。**13.**ZC33Sスイフト最上位はベテラン土手啓二朗選手。松本選手とコンマ03秒という僅差の2位で新型スイフト最上位を更新。**14.**山野哲也選手は逆転を誓った第2ヒートで珍しく失敗し、次代を拓く全日本ジムカーナ「101勝目」獲得ならず。

15.PN4表彰台。優勝は野島孝宏選手（中央）。2位は茅野成樹選手（左）、3位は沖縄の実力者・石原昌行選手。**16.**築き上げた名阪連勝を野島選手に止められたPN4茅野選手。**17.**今季はスポット参戦の石原選手が3位。**18.**第3戦エビス西で初勝利したSA2佐藤巧選手が逆転されて2位転落。**19.**SA2の功者・朝山崇選手は3位。**20.**名阪連覇を達成したSA2高江淳選手。**21.**SA3で4連勝を飾った小俣洋平選手。**22.**今季最上位のSA3渡辺公選手。**23.**エキシージに乗り換えて初表彰台のSA3久保真吾選手。苦労の末の、地元での好成績に思わず涙。

24.PN3の優勝はユウ選手。第2ヒートはクレバーな走りでコンマ2秒逆転した。**25.**PN3川北忠選手は高い集中力を保った走りが及ばず2位。**26.**PN3でロードスターRFを駆るベテラン天満清選手が3位。優勝はすぐそこ。**27.**SA4優勝は津川信次選手。大会オーバーオールタイムで開幕4連勝を飾った。**28.**SA4菱井将文選手。第2ヒート渾身の走りも虚しく逆転されて2位に。**29.**SA4の3位は津川選手のチームメイトである佐藤裕樹選手。